

令和3年度ステップ・アップ研修実施報告

1 目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

2 期日・会場

第1日目 蓮田市総合文化会館ハストピア
第2日目 机上研修

3 受講者数

269人

小学校等教諭 178人
中学校等教諭 91人

4 日程

<第1日> 令和3年7月29日(木)

- ・講義1「東部の教育を担う教員について」
東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事 高野 達
- ・講義2「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」
東部教育事務所総務・人事・学事担当
主席管理主事 三田 秀典
- ・講義3「先輩に学ぶ」
八潮市立八幡中学校 教諭 田中 貴大
- ・受講者代表「2年目を迎えて」
松伏町立松伏第二小学校 教諭 高橋 幸恵
- ・講義4「生徒指導に関する現状と課題」
東部教育事務所 指導主事 牛島 健一
- ・講義5「特別支援教育の視点を生かした授業、学級経営の充実」
東部教育事務所 指導主事 神田 美佐子
- ・講義6「道徳教育の充実」
東部教育事務所 指導主事 鈴木 久美子
- ・講義7「よい授業のポイント(授業づくりについて)」
東部教育事務所 指導主事 中尾 信太郎
- ・講話「ステップ・アップ：進歩すること。向上すること。」
東部教育事務所 所長 中西 健二

<第2日> 机上研修

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合研修を机上研修に振り替え、実施しました。

5 内容・受講者感想

講義 1

「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当

主席指導主事 高野 達

- 1 はじめに
- 2 東部の教育を担う教員として
 - (1) ステップ・アップしていますか
 - (2) 信頼される教師となるために
 - (3) 生徒理解と保護者理解
- 3 ステップ・アップ研修に臨むにあたって
 - (1) 「学び続ける教師」としての姿勢
 - (2) 横のつながりを大切に
- 4 おわりに



【受講者感想】

- ・これまでの自分の教師としての生活を振り返った際に、自分の強みと改善すべき点が分かった。子供たちのことを第一に考え、職務を全うしていきたい。
- ・「共に学んだ仲間は、これからも頼りに」という言葉を大切にしたい。初任者研修で顔を合わせる機会がほとんどなかったもので、今日出会えた先生方を頼りにしていく。
- ・常に高みを目指して、自分自身を磨いていこうと改めて考えた。授業に加えて、子供たちへの対応、保護者への働きかけも一つ一つ丁寧かつ深く続けていきたい。

講義 2

「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当

主席管理主事 三田 秀典

- 1 はじめに
- 2 教育公務員とは
- 3 教員としての心得
- 4 教員としての服務
- 5 おわりに



【受講者感想】

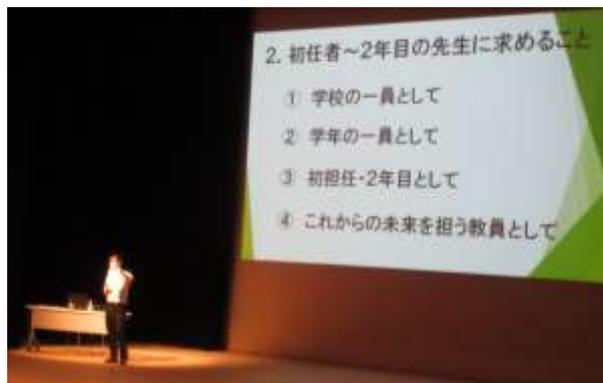
- ・懲戒処分を改めて痛感した。このぐらいなら大丈夫という甘い気持ちや意識のなさが事故に繋がっていくと思った。自分もしっかりと事故防止について意識を高めていく。
- ・「決まりを守る」「思いやりをもつ」という、いつも子供たちに伝えていることを自分が率先して実行し、責任ある言動を判断、選択して職務に臨みたい。
- ・人を育てる仕事をする上で、子供たちに胸を張って指導ができるように、自分の立場を踏まえた行動や子供たちとの接し方を心掛け、信頼される教師であらねばならないと思う。

講義 3

「先輩に学ぶ」

八潮市立八幡中学校 教諭 田中 貴大

- 1 八潮市について
- 2 初任者～2年目の先生に求めること
 - (1) 学校の一員として
 - (2) 学年の一員として
 - (3) 初担任、2年目として
 - (4) これからの未来を担う教員として



【受講者感想】

- ・「『行事を頑張る』子供たちから『行事をきっかけに頑張れる』子供たちへ」など今までの考え方が変わったことが何度もあった。子供たちを伸ばせるように生かしていきたい。
- ・学校教育目標、学年目標、学級目標のつながりの大切さを改めて気付かされた。目標を明確に、そして、先輩方との共通理解の上で、子供たちを育てていきたい。
- ・「褒める電話をしてください。」とお話されていた。褒めるためには、日々子供たち一人一人の活躍の場面を見逃さずに記録することが大切だと改めて実感した。

受講者代表発表

「2年目を迎えて」

松伏町立松伏第二小学校 教諭 高橋 幸恵

- 1 学校紹介
- 2 1年目の成果、課題等について
- 3 今後やってみたいこと



【受講者感想】

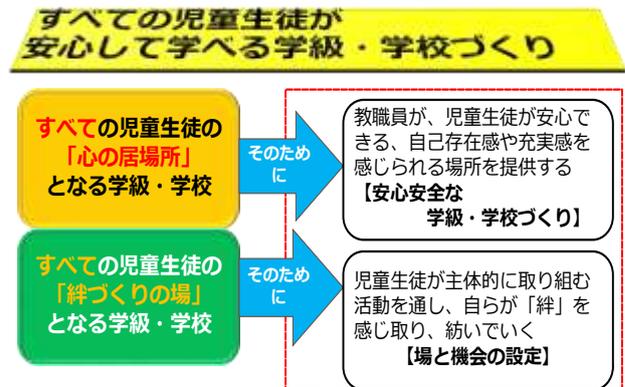
- ・授業や生活のルールについての指導の悩み等共感する部分がたくさんあった。相談することを大切に、様々なことに挑戦したい。掲示や学級経営等参考にしていく。
- ・学級を「集団」として捉え、子供主体の授業や学級づくりをしている様子が非常に勉強になった。子供たちが進んで活動したいという学級づくりを目指す。
- ・子供たちが初心に返れるように作成した「学級の歩み」の掲示や学級目標の決め方などが参考になった。

講義 4

「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 指導主事 牛島 健一

- 1 生徒指導とは
- 2 生徒指導が目指すこと
- 3 事例演習



【受講者感想】

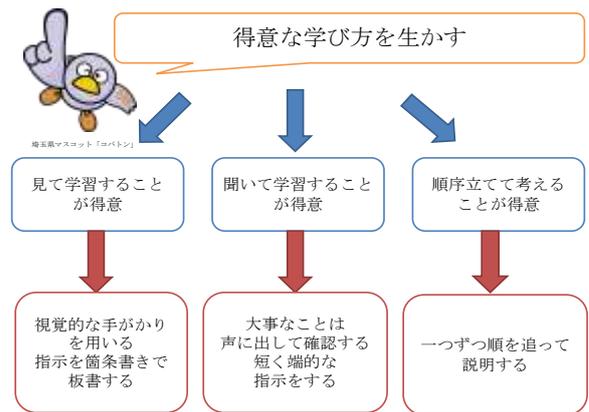
- ・「心の居場所づくり」という点を特に意識していきたい。学級に自分の居場所があることで、安心するだけでなく様々なことに挑戦できると思う。
- ・生徒指導において、児童理解がとても大切だと思った。問題が起きた時、背景に何があるのか、その子供の気持ちに寄り添った指導をしていきたい。
- ・生徒指導の3つの機能を念頭に置きながら、指導をしていかなければならない。子供自身が自己決定する場を用意することが大切であると感じた。

講義 5

「特別支援教育の視点を生かした授業、学級経営の充実」

東部教育事務所 指導主事 神田 美佐子

- 1 はじめに
- 2 みんなが分かる授業づくり
- 3 特別支援教育に関する情報提供
- 4 おわりに



【受講者感想】

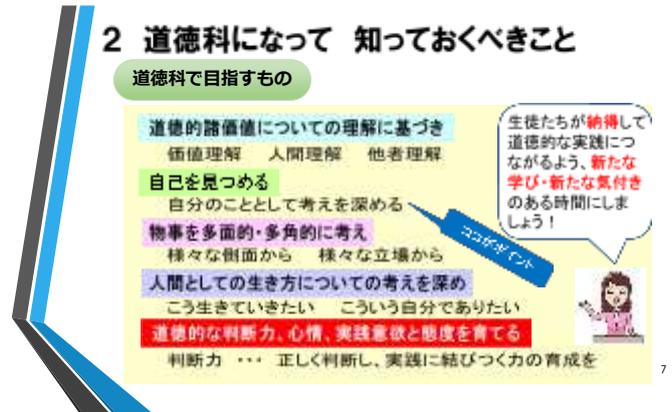
- ・実態を把握し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた方法を試し、試行錯誤しながら適切な指導の工夫を行っていきたい。
- ・子供の困り感に寄り添い、何が得意なのかを考えることで、その子供にあった支援が見えてくると感じた。一人一人の個性を生かした支援をしていきたい。
- ・子供の得意な学び方に合わせて、指示の出し方や授業を工夫することの大切さを学んだ。それぞれの子供たちが楽しく学べる場所をつくりたい。

講義 6

「道徳教育の充実」

東部教育事務所 指導主事 鈴木 久美子

- 1 はじめに
- 2 道徳科になって 知っておくべきこと
- 3 柔軟な道徳授業をつくるために
- 4 道徳科における評価
- 5 おわりに



【受講者感想】

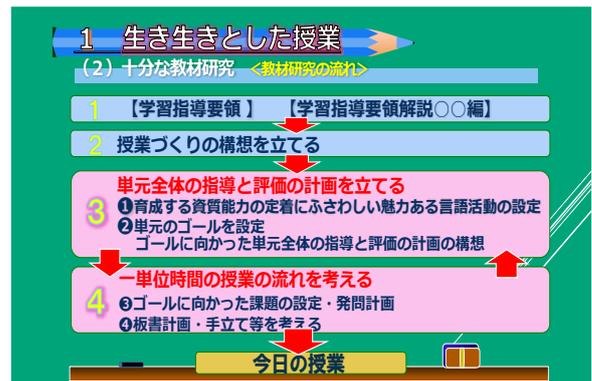
- ・ 4つのタイプの発問が大変勉強になった。私はA（共感的）な発問に偏ってしまっているので、分析、投影、批判的な発問を増やし、多面的、多角的な授業をしたい。
- ・ 学級の実態にあった教材選びや教員が道徳的価値を押し付けるのではなく、子供たちが他者との対話により自分たちで価値を見つけていけるような授業の工夫をしたい。
- ・ 子供が当事者意識をもてるようにする大切さを学んだ。「〇〇とは何だろう」「〇〇は必要だろうか」と学習課題を投げかけ、自分の考えをもった上で議論する道徳を目指していきたい。

講義 7

「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指導主事 中尾 信太郎

- 1 生き生きとした授業
- 2 よい授業づくりのポイント
- 3 埼玉県の教員として



【受講者感想】

- ・ 単元のゴールを明確に示して授業を進めたら、子供たちがその目標に向かっていったのを思い出した。「楽しい、分かった」の顔があふれる授業づくりを目指していきたい。
- ・ 子供たちの実態を把握した上で教材研究を行う。時間をかけて教材研究を行うことで、子供に身に付けさせたい力をしっかり指導することができると思った。
- ・ 単元全体の計画を練り、単元のめあて、本時のめあてから子供自身がどのような力を付けることができるのか自覚して学ぶことができるような授業づくりをしていきたい。

講話

ステップ・アップ：進歩すること。向上すること。

東部教育事務所 所長 中西 健二

- 1 「教師として昨年度からステップ・アップしているものは何ですか」
- 2 「進みつつある教師のみ人を教える権利あり」
- 3 学級づくり
- 4 修養



【受講者感想】

- ・保護者が子供に今日の学びを尋ねたときに、子供が自分の言葉で自分の学びを説明できるように、自分自身の授業の指導について振り返り、自己研鑽していきたい。
- ・「自分の言葉で整理すること」を子供たちにはよく指導するが、自分自身は行っていないこともあった。特に新しい情報や知識等は自分の言葉で整理し表現できるようにしていきたい。
- ・「学び続ける教師」であることの意味を改めて考えた。子供の目線に立ち、子供が尊敬できるような人間、教師になりたい。自分の教師像についてもう一度考えたい。

※【受講者感想】は、標記の都合上、文末等を変更しています。

【感想記入用紙から】

<第1日>

質問項目	回答 (%)				平均
	4	3	2	1	
1 研修に意欲的に参加することができた	77.9	20.9	1.1	0	3.77
2 研修の内容は、実践的で役立つものだった	73.4	22.4	4.2	0	3.70
3 研修に参加して疑問や不安を解消できた	51.3	39.5	9.1	0	3.42
4 研修で学んだことを今後に生かしたいと思う	90.5	9.5	0	0	3.90
5 研修に満足している	67.7	28.1	4.2	0	3.63

* 4 (あてはまる) ←————→ 1 (あてはまらない)

7 成果

(1) 講義等について

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、通常の初任者研修が実施できない中で迎えたステップ・アップ研修であったが、受講者が集中して真剣に講義等を聞いていた。
- ・一つ一つの講義等が教員としての資質・能力を向上させるための重要な視点であり、2年次の教員にとって、昨年度を見直し、夏休み明けの実践にヒントを与えるものとなった。
- ・講義「先輩に学ぶ」では、講師の熱意ある言葉から、教師としての魅力ややりがい再確認することができた。受講者にとって、身近な教師像となった。
- ・受講者代表発表「2年目を迎えて」では、悩みや不安を共有するとともに、優れた具体的、実践的な取組に触れることができた。

8 課題

(1) 期日・日程について

- ・欠席者は、1日目が6名であった。欠席の主な理由は、林間学校引率であった。
- ・今年度は、1日目に講義等、2日目に班別の協議を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2日目の班別協議を机上研修に振り替えることになった。

(2) 会場について

- ・新型コロナウイルス感染症の急激な拡大に伴う緊急事態宣言を受け、急遽2日目の協議会場の学校をキャンセルする事態となった。研修会場については、新型コロナウイルス感染の状況を見ながら適切に設定していく必要がある。

(3) 研修内容について

- ・1日目の講義等は、教員としての資質を高めるよい機会とすることができた。
- ・1日目の講義等で得た知識や考えを、受講者同士でアウトプットする機会がなくなってしまったのが非常に残念である。